

○令和2年度 教育事業

「ボランティア養成塾 危機管理編」(R2.1 1.8 (日))

◆目的

青少年教育施設における事業等で、子供たちと関わる際に必要な基礎的な安全管理や緊急時の対応等について学ぶとともに、「安全」への意識を高める機会とする。

◆参加実績 (定員20名)

参加2名

年代別内訳	
30代	1名
70代	1名

地域別内訳	
旭川市	1名
紋別市	1名

◆日程

10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	15:00		
11/8 (日)	集合	開 会 式	講義・演習 「リスクについて学ぼう」 講師：交流の家職員	昼 食	講義・演習 「いざというときに備えよう」 講師：交流の家職員	閉 会 式	解散

◆プログラム

① リスクについて学ぼう (120分)

安全管理の手法の1つであるリスクマネジメントの考え方について、講義を行った。その後、ダッチオープンでの焼き芋づくり活動を通して活動中に感じたリスクを洗い出し、それらに対する対策を考えた。



② いざというときに備えよう (120分)

傷病者への対応の仕方や症状の聞き取りなどについて学ぶために、傷病者役と救助者役に分かれ、シミュレーションを行った。傷病者役は、年齢や性別、症状などが書かれたカードを元に実際に痛がる演技を行い、救助者役は傷病者への接し方や声のかけ方などを考え、実際に傷病者へ対応や簡単な処置を行った。



◆事業運営・企画のポイント

○ボランティア向けのため、活動中に命にかかわるような危険以外は注意しないことを伝え、活動後のふりかえりにおいて、危険だった場面を題材に対策を考えた。

○事故等の発生を起こさないことと実際に起こった時にどうするのかの両方の安全意識を高められるようプログラムを構成した。

◆参加者の声

□今回は実技の体験が多く、実際のシチュエーションを想定しながら活動できました。

□様々な実技を体験できました。実際の症状を考えながら復習しようと思います。

□いつも大変ありがとうございます。できるだけ、ボランティア活動に参加したいと思います。



◆事業の成果と課題

- ①参加者の声等から、プログラムを通して参加者の安全への意識を向上させることができた。
- ②今回は演習の場としてプログラムを実施したが、実際の参加者に対する経験を積むことも重要と考える。今後、ボランティア活動の実践の場をさらに増やしていくことで、ボランティアが必要な安全管理の知識や技術等を学んでもらえるようにする必要がある。

◆事業運営費	合計	2,984 円
燃料費	・	896 円
通信費	・	2,088 円

